

交野市文化財調査概要

平成 6 年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

1995. 3

交野市教育委員会

例　　言

1. 本書は交野市教育委員会が、平成6年度国庫補助事業として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は、交野市教育委員会が調査主体となって実施した。
3. 調査の実施、本書の作成及び遺物整理にあたっては、大場一、柏野勝重、代永崇、木佐木和夫、笠原利恵子諸氏の協力を得た。
4. 本書で使用したレベル高はすべて海拔絶対高で、方位は磁北方位である。また土色の色調は、「新版標準土色帳」(農林省農林水産技術会事務局発行)によった。

目 次

例 言

第1章 埋蔵文化財発掘調査の状況.....	1
第2章 発掘調査報告.....	1
第1節 交野郡衙跡.....	1
第2節 天田神社遺跡.....	4
第3節 東倉治遺跡.....	5
第4節 私部城跡.....	6

挿 図

第1図 交野郡衙跡調査地位置図.....	1
第2図 交野郡衙跡(1)掘削位置図.....	2
第3図 交野郡衙跡(2)掘削位置図.....	2
第4図 交野郡衙跡(3)掘削位置図.....	3
第5図 交野郡衙跡(4)掘削位置図.....	3
第6図 交野郡衙跡(5)掘削位置図.....	3
第7図 交野郡衙跡(6)掘削位置図.....	4
第8図 天田神社遺跡調査地位置図.....	4
第9図 天田神社遺跡(1)掘削位置図.....	4
第10図 天田神社遺跡(2)掘削位置図.....	5
第11図 東倉治遺跡調査地位置図.....	5
第12図 東倉治遺跡(1)掘削位置図.....	5
第13図 東倉治遺跡(2)掘削位置図.....	5
第14図 私部城跡調査地位置図.....	6
第15図 私部城跡(1)掘削位置図.....	6

図 版

- 1 交野郡衙跡(3)試掘トレンチ
- 2 交野郡衙跡(6)第1トレンチ西側断面
- 3 天田神社遺跡(1)試掘トレンチ東側断面
- 4 東倉治遺跡(2)試掘トレンチ北側断面

第1章 埋蔵文化財発掘調査の状況

交野市教育委員会では、平成6年8月9日から平成7年2月16日に至る間、12件の補助事業にかかる発掘調査を実施した。

今年度、調査の対象となった遺跡は、交野郡衙跡7ヶ所、大田神社遺跡2ヶ所、東倉治遺跡2ヶ所、私部城跡1ヶ所である。

第2章 発掘調査報告

第1節 交野郡衙跡



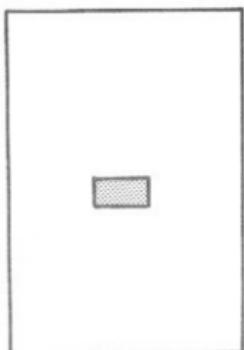
第1図 交野郡衙跡(1)調査地位置図

1:5000

(1) 郡津1丁目239-6

調査区の中央に2×1mのトレンチを設定し、地表下110cmまで掘り下げる。

調査の結果、地表下110cmまでの間には基本的に5層の堆積層を確認した。

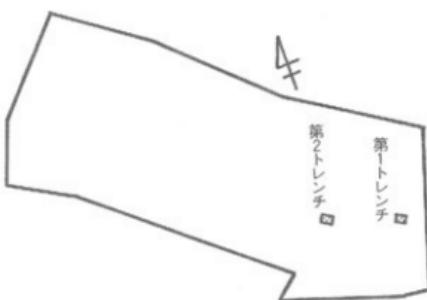


第2図 交野郡衙跡(1)掘削位置図 1:200
とも思われる場所である。

調査は、調査区の東端に $1.5 \times 1m$ のトレンチを設定し、地表下130cmまで掘り下げる。調査の結果、トレンチの断面に4層の地層の堆積を確認できた。地表下20cmまでが表土層で、その下層に明黄褐色土の砂層が地表下80cmまで続く。出土遺物から近世以降の盛土と推測する。第3層は、同じく明黄褐色の砂層が地表下130cmまで続き、その下層に浅黄色の堅くしまった砂層が堆積していた。

出土遺物としては、第1・2層から近世陶器の破片と瓦片が、そして第2・3層からは須恵器と土師器片が出土した。

造構については、調査面積の関係から断定することはできないが、出土遺物から推測する限りではこの調査区が古墳域の可能性は極めて少ないようである。



第3図 交野郡衙跡(2)掘削位置図 1:800

第1層は、現代遺物の含まれた盛土層で、その下層が旧耕作層であった。地表下90cmで第4層のにびい黄褐色砂質土層となり、その下層に地山とみられる黄橙色の、一部礫を含んだ砂層が堆積していた。遺物・造構は確認できなかったが、面積を拡大して調査すれば、第4層下面に造構の存在が予測される。

(2) 郡津3丁目1906-1

今回の調査区は、現在、東側に残る竹林の一部で、航空写真から推測する限りでは古墳

(3) 郡津2丁目1870-3

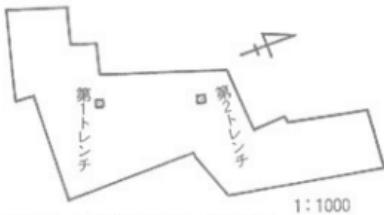
調査区の北側に $4 \times 1m$ のトレンチを設定し、全体的に地表下20cmまで掘り下げた後、 $2 \times 1m$ の部分を地表下90cmまで掘り下げる。

調査の結果、層序としては、盛土と旧耕作層である第1層の下層に、5層の堆積層を確認する。第3・4層のにびい黄橙色の粘質砂層から土師器片を2、3点出土した。土器片

の出土状況から判断して、第2・3層は耕作地を造る際に、他の場所から運んできた土と推定される。第5・6層には、灰黄褐色と黄褐色の礫を多量に含んだ層が堆積していた。このように、地表下90cmでも(普通50cm以内で確認できる)この地域特有の黄色系の地山には到達しなかった。

遺構を確認することはできなかったが、この調査区域の古代の地形が北側の道路を境として、現在よりも南方に傾斜しているのが確認できた。

(4) 郡津1丁目1976-4



第5図 文野郡衙跡(4)掘削位置図

(5) 郡津1丁目82

調査区の北側に $1.5 \times 1\text{m}$ のトレンチを設定し、全般的に地表下40cmまで掘り下げた後、さらに $0.75 \times 1\text{m}$ の部分を20cm掘り下げる。

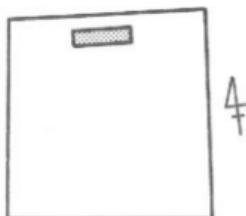
調査の結果、地表下30cmで、この地域特有の黄褐色の粘質土層となる。

遺物・遺構は確認できなかった。

(6) 郡津1丁目309

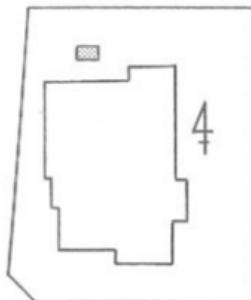
調査区の南側西端部と中央東端部に $2 \times 1\text{m}$ の第1トレンチと $1.5 \times 1\text{m}$ の第2トレンチを設定し、それぞれ地表下60cmと80cmまで掘り下げる。

第1トレンチでは地表下40cmまでが盛土で、その下層は旧耕作層で、地表下60cmで地山となる。また第2トレンチでは、地表下60cmまでが盛土で、前と同様その下層は旧耕作層で、地表下80cmで地山層となる。遺物・遺構等は確認できず、また工事が盛土層以外に支



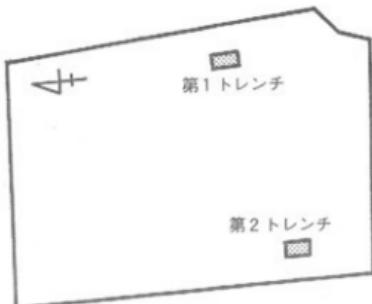
第4図 文野郡衙跡(3)掘削位置図

調査区の南北にそれぞれ $1 \times 1\text{m}$ のトレンチを設定する。両トレンチとも地表下80cmまで掘り下げるが盛土に厚く覆われていて、旧地表面をも確認することができなかった。



第6図 文野郡衙跡(5)掘削位置図

障が及ばないため調査を終了した。



第7図 交野都跡(6)掘削位置図 1:400

第2節 天田神社遺跡



第8図 天田神社遺跡調査地位置図 1:5000



第9図 天田神社遺跡(1)掘削位置図 1:400

(1) 森南2丁目472-2

調査区南西部分に $2 \times 1\text{m}$ のトレンチを設定し、地表下90cmまで掘り下げる。

調査の結果、地表下20cmまでは、以前の建造物の残上で覆われ、その下層に旧表土層が存在し、さらに下層に黄褐色の粘質の砂質土層が堆積する。この砂質土層は、近くを流れる小久保川の影響によるものとみられる。遺物・遺構は確認できなかった。

(2) 私市4丁目125

調査区西侧部分に $1 \times 1\text{m}$ のトレンチを2ヶ所設定し、それぞれ地表下60cmと30cmまで掘り下げる。

調査の結果、第1トレンチでは、地表下30cmまで耕作上層が堆積し、その下層に黄褐色の粘質土層が地表下60cmまで堆積していた。

遺構は確認できなかったが、遺物としては、木炭の小片が出土した。



1:1000

第10図 天田神社遺跡(2)掘削位置図

第3節 東倉治遺跡

(1) 東倉治3丁目2105-1.-2,2110,2111,2112

調査区の南側隅に第1トレンチを、そして中央よりに第2トレンチを設定する。トレンチの規模はそれぞれ $2 \times 1\text{ m}$ で、地表下100cmまで掘り下げる。

調査の結果、この調査区も、この区域の他の調査区と同様に花崗岩質の礫の比較的多い層と、多量に含む層とが交互に分かれて堆積していた。

遺物・遺構は確認できなかった。

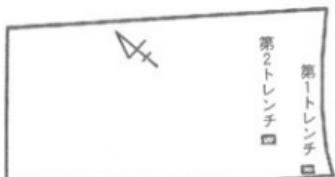
(2) 東倉治5丁目2219

調査区南東部分に東西に $3 \times 1\text{ m}$ のトレンチを設定し、地表下100cmまで掘り下げる。

調査の結果、砂層が何層にも分層して堆積するのみで遺物・遺構は確認できなかった。この地域は、近くに位置する清水谷古墳（後期古墳）が土砂にて埋没しているように、古墳時代の層までには2m以上の土砂が堆積していると推定される。



第11図 東倉治遺跡発掘調査地位位置図 1:5000



第12図 東倉治遺跡(1)掘削位置図 1:1000



第13図 東倉治遺跡(2)掘削位置図 1:400

第4節 私部城跡



第14図 私部城跡調査地位置図 1:5000

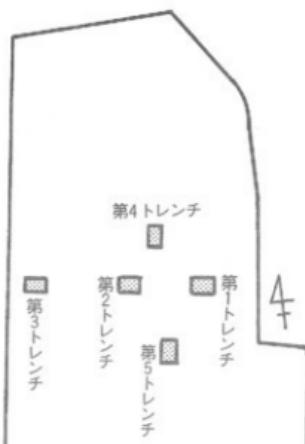
(1) 私部 5 丁目 1760-1, 1761-1, -2, 1762-1

調査区中央の部分に東西に $1.5 \times 1\text{ m}$ のトレンチを
3ヶ所(東から順に第1・第2・第3)設定し、第1トレンチと第2トレンチの間に南北に
同じく $1.5 \times 1\text{ m}$ の第4・5トレンチを設定する。

この地区は私部城跡の第3郭部分の東側に位置し、付近からは、弥生時代中期の遺物が
出土した場所である。

調査の結果、この区域は全てのトレンチで30~50cmの盛土層が堆積しており、その下層
に黄褐色の砂質土層が堆積し、そして、下層に礫を多く含む明黄褐色土層が堆積していた。

遺物・遺構は確認できなかったが、調査区の地形並びに断面実測図から推測すると、こ
の場所は以前に削平を受けたようであり、また第1トレンチでは河川の作用によると思
われる細かい砂粒の層が堆積し、現在の地形とは異なった地形の様子がみられ、地形が複雑に
変化したことが認められた。



第15図 私部城跡(1)掘削位置図 1:400

図 版



図版1　交野郡衛跡(3)試掘トレンチ



図版2　交野郡衛跡(6)第1トレンチ西側断面



図版3 天田神社遺跡(1) 東側断面



図版4 東倉治遺跡(2) 試掘トレンチ北側断面

報告書抄録₍₁₎

ふりがな	へいせいらねんどかたのしまいぞうぶんかざいはっくつちょううさがいよう							
書名	平成6年度交野市埋蔵文化発掘調査概要							
副書名	交野市文化財調査概要							
著者次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	奥野 和夫							
編集機関	交野市教育委員会							
所在地	〒576 大阪府交野市私部1丁目1番1号 〔0720)-82-0121〕							
発行年月日	西暦 1995年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 在所	コード 市町村	北緯度 運跡番号	北緯度 47分 30秒	東経度 40分 41秒	調査期間	調査面積 m ²	調査系因
交野郡衙跡 (1)	交野市都津	27230		34度	135度	1994.8.10 ~ 1994.8.18 1994.10.11	100.60	宅地開発
(2)				47分		~ 1994.10.12	201.59	
(3)				30秒	41秒	1994.3.25	1754.57	
(4)						~ 1994.8.26		
(5)						1994.8.13	1062.46	
(6)						1994.12.18	346.85	
						1995.1.3	475.73	
						~ 1995.1.10		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
交野郡衙跡	散布地 集落跡 官衙跡	古墳 ~ 中世		(2)近世衛磁器・瓦片 須恵器片・土師器片 (3)土師器片				

報告書抄録(2)

ふりがな	へいせいいらねんどかたのしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいよう							
書名	平成6年度交野市埋蔵文化発掘調査概要							
副書名	交野市文化財調査概要							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	交野 和夫							
編集機関	交野市教育委員会							
所在地	〒576 大阪府交野市私郎1丁目1番1号 電(0720)-92-0121							
施行年月日	西暦 1995年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村	遺跡番号	北 緯	東 経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
天雨神社遺跡(1) (2)	交野市森南 交野市私郎	27230		34度 46分 13秒	135度 41分 24秒	1994.8.18 1994.2.16	215.80 575.48	宅地開発
東倉治遺跡 (1) (2)	交野市東倉治	27230		34度 47分 39秒	135度 42分 21秒	1994.8.9 1994.12.5	1609.87 203.9	宅地開発
私郎城跡	交野市私郎	27230		34度 47分 12秒	135度 40分 57秒	1994.10.4 ~ 1995.1.10	529.92	宅地開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記	事項		
天田神社遺跡	裏塚跡	弥生 ~ 古墳		(2)木棟の小片				
東倉治遺跡	散布地	弥生 ~ 古墳						
私郎城跡	城館跡	中世						

平成6年度 交野市埋蔵文化財発掘調査概要

発 行 日 1995年3月30日

編集・発行 交野市教育委員会
大阪府交野市私部1丁目1番1号

印 刷 所 加地企画印刷株式会社

